

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

160号 2017.7.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

核とは共存できない

松井英介



その重要なニュースは、いちばん近い隣国からやってきました。草の根の運動が生み出した文在寅大統領は、6月19日、脱原発を推進すると宣言したのです。それに先立って、台湾は今年1月、アジアで初めて脱原発に踏み切っています。ヨーロッパでは、オーストリア、ベルギー、ドイツにつづき、スイスは去る5月、国民投票で脱原発を決めました(図)。

決められないのは、日本です。“フクシマはもう終わった。これからはオリンピックだ。野球とソフトボールは、福島でやるぞ！ 何兆円もの税金をつぎ込んで、世界各地から若者を集めて、運営の安全を確保するために、共謀罪は不可欠だ”。

東電福島第一原発事故による核大災害によって被曝を強いられた子どもたちのいのちと尊厳は、完全に棚上げ。オリンピックなんかやっているときか！？との声が小さいのを良いことに、安倍政権は、“安全な日本原発”の輸出をつぎつぎに強行しています。

一方、ニューヨークの国連本部では、「核兵器禁止条約」の第二回制定交渉が行われています。日本原被害被爆者団体協議会(被団協)は、約296万人分の「ヒバクシャ国際署名」をホワイト議長(コスタリカ)に手渡しました。議長は「4月に長崎を訪れ、被爆者たちとの会話で深く感銘を受けた」と述べ、条約の採択に尽力すると表明したそうです。

6月27日に開かれた全体会議で、ホワイト議長は、「核保有国は核兵器を直ちに除去し、速やかに廃棄すべき」とする新しい草案を示しました。草案前文では、「核兵器の使用が被爆者にもたらした受け入れがたい苦しみと被害に留意する」と明記。そこにあるのは、昨年8月「核のボタン」(“フットボール”)を携行して、米軍ヘリで広島を訪れ「空から死神が舞い降り」などと述べた米大統領の対極にある認識です。今まで核禁止条約がなかったことが不思議ですが、この画期的な国連核禁止条約を実現するために、世界中の良心が結集したのです。この交渉に日本政府が不参加なのは、恥ずかしいかぎりです。

大江健三郎さんは、「ヒロシマ・ノート」¹⁾の引用の後に書いています。「広島、長崎の経験、さらにそれ以降の五十年の苦痛に満ちた被爆者の経験を生かすのでなければ、日本人はまったく経験に学ぶことのない人間だ、といわれていたし方ないと思う」²⁾。

また、森瀧市郎さんの遺志を継いだ娘・春子さんの言葉を、私は今かみしめています。

「福島の核被災者が『われわれは棄民だ』と憤るこの有様を私たちは許してはならない。原爆被爆者についても、黒い雨による内部被曝を切り捨てるのと同様に原発についても被害の実態を矮小化しようとする権力に立ち向い、核兵器・原発の廃絶とともに、核被害への完全な援護法を勝ち取っていかなければならない」²⁾。

参考文献

- 1) 大江健三郎「ヒロシマ・ノート」(1965年)岩波新書, P. 38
- 2) 森瀧市郎「核と人類は共存できない——核絶対否定への歩み」(2015年)七つ森書店, P. 4&P. 230